

まぶ で KO SO!

過去の記事は

こちら



まずは試してみるのが鍵

子育てにもデザイン思考を

日常の問題解決・課題解決にも活用できる「デザイン思考」についてご紹介します。私の授業では「感性で受け止め、相手に寄り添う技術で解決策を考える」を軸に、デザイン思考を用いた課題解決に取り組んでいます。例えば、スマートフォンの操作性や駅の改札口、スーパーのレジで感じる使いやすさも、実はその背景にある「利用プロセスの中の小さな違和感」を丁寧に観察・調査することから始まっています。

「違和感」を生かす考え方は、子育てにも活用できます。子どもが突然泣き出す、言うこ



多様なニーズへの対策案を話し合う岐阜大生ら＝岐阜大で

とを聞かない。そのような行動は、子どもなりの感性や意図が表れているかもしれません。どんな場面で、そのような行動をするのか、行動の背景を読み解こうとすると、そこにデザイン思考の視点が生きてきま

す。物事を単体でなく、全体のつながりの中で捉える姿勢は、人間、子どもの行動理解にも通じます。

また、重要なのが「フレーム」と「リフレーム」という考え方です。私たちは日常の前提



川瀬真弓さん

(フレーム)に縛られており、それが新しいアイデアの妨げになることもあります。物事を別の視点で見直してみることもと言えるでしょう。

例えば、改札は「人が通るもの」という見方を、「移動を支援するしくみ」と捉え直せば、多様な利用者にとって使い勝手のよい設計につながります。泣いている子どもも「わがまま」ではなく「自分で選びたい」と

いうサインと受け取れば、接し方は変わります。この視点の転換には、論理だけでなく「感性」が大切。「なんか変だな」「もっとこうだったら…」という心の声に気づくことで、解決の糸口が見えてきます。

実践するには、まずは試してみる事が鍵になります。理想を思い描くだけでなく、小さくても「かたち」にして試すことで、今の取り組み方でよいかどうか、ほかに課題は残っていないかを具体的に検討しやすくなるからです。実際に試してみると、「違うな」「こうした方がいい」という気づきが得られます。子育ても「今日はこれで泣きやんだ」「別の遊びを試したら笑った」といった小さな

試行錯誤の積み重ねが、保護者の成長につながります。

未来づくりに正解はありません。常に最適な「解」を模索し続ける姿勢こそが、価値ある成果につながります。皆さんも感性に耳を澄ませ、身近な人の「思い」に寄り添いながら、未来を共にデザインしていきましょう。

かわせ・まゆみ 岐阜大



社会システム経営学環・工学部デザイン思考教育担当助教。専門は教育工学、デザイン思考教育。岐阜大学大学院修了。博士(工学)